ノーサイド

北原巌男

自衛隊員&家族の皆さんは、住民です！

7月20日付け「八重山毎日新聞」（本社 沖縄県石垣市）1面に、「おわび」と題して次のような囲み記事が掲載されました。

「19日付社説で、『石垣市の人口5万人達成も自衛隊員、家族は含めずに公表すべきではないか』などと、自衛隊員、その家族の皆さまの人権に対する配慮を欠いた表現があったことを深くおわびいたします。㈱八重山毎日新聞」

マスコミを含め「表現の自由」が確保されることがいかに大切であるかは、僕も承知しているつもりですが・・・。

遡ること1972年5月15日の沖縄の本土復帰以来、これまでどれほど多くの自衛隊員の皆さんが家族と一緒に沖縄本島はじめ八重山等の離島に赴任し、それぞれに与えられた任務の遂行に努めると共に、当該地域の皆さんとの「良き隣人」関係・絆を築き挙げて来られたことでしょう。中には沖縄にて人生の伴侶や家族にも恵まれ、かけがえのない家庭を築いて来られている隊員の皆さんも沢山おられることと思います。イチャリバチョーデーとかヤーニンジュ、チムグクルといった沖縄の皆さんが大切にされている沖縄古来の温かい思いや言葉と共に浮かんで参ります。

かつて、僕も自衛隊員として妻と一緒に沖縄県に赴任し、基地問題に取り組みながら多くの県民の皆さんに出会い、発見し、親しく交流する機会に恵まれた一人です。あれから幾年月。これからも、あのときのご縁を大切にしながら、ともに人間同士、一緒に歩んで行きたいなぁと思う今日この頃です。

僕は、前掲「おわび」が、「人権に対する配慮を欠いた表現があった」とだけ捉えて、そこに留まっていることに、大きな違和感を抱いています。

社説の論調は、あくまでも職業が自衛隊員であることを理由としています。自衛隊員という特定の職業に従事している石垣市民である隊員を、その職業によって差別し、その人権を真っ向から否定し無視するものと断じざるを得ません。しかも、隊員の家族の人権をも一網打尽に否定し無視しているのです。

7月19日付、同紙社説。（筆者抜粋）

「・・・石垣市の人口が10日、初めて5万人を超えた。中山義隆市長は喜びの表情で記者会見、・・・会見で市長は5万人達成の要因について移住者の増加のほかに自衛隊基地の開設もあると言及したが、本音はそこにあるのではないか。だとすると違和感を抱かざるを得ない。『自衛隊のおかげで5万人に達した』などと言われたら素直に喜べないのが一般市民の受け止めではないか。

新型コロナ大流行のころ、沖縄県の感染者数が毎日発表され、そのなかで、米軍関係は含めないとのお断りがあった。これと同様、石垣市の人口5万人達成も自衛隊、家族は含めずに公表すべきではないか。

そんな意見があってもおかしくない。

・・・市長が言う『目標5万5千人』もその根拠が分からない。・・・少なくとも明確なのは『基地のない自然豊かな島にしよう』ではないか。」

自衛隊や石垣駐屯地開設に対する見解や立場の相違に拘わらず、同紙社説を読まれた皆さんの中から、社説が言うような「そんな意見」が出てくることは皆無である。僕はそう確信します。

沖縄県内各地で暮らしている自衛隊員&その家族の皆さんは、いずれも在住する自治体の市民であり町民であり村民なのです。

正真正銘の住民です。

皆さんには、これからも謙虚な中にも矜持を持って、良き社会人、住民としていってください。

……

北原 巌男（きたはらいわお）元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事